

今日は、北九州市の中学二年生の詩を紹介します。題は『聞きたい』です。「聞く」という言葉には、耳で音や言葉を聞くだけではない、いろんな「聞き方」があることを作者は語っています。皆さん、詩を聞きながらじっくりと「考えてみてください」。では、読んでみますね。

『聞きたい』

耳から音が入ってきた時、

どんな音なのかを分かうとする

言葉であれば その意味を理解しようとする

「聞く」は 耳に入ってきた音や言葉を認識するけれど

私の「聞く」は 相手の感じていること

伝えたいことを理解しようとして耳を傾けること

心を込めて「聞く」

□元を見ながら 目で「聞く」

相手の顔の表情で「聞く」

手の動作で「聞く」

紙に書いた文字で「聞く」

補聴器の力で「聞く」

多少、聞き取りにみんなよりも時間はかかるかもしれないけれど、聞きたい

いかがでしたか。

聴覚障害のある方は、耳から入ってきた音や言葉を認識する「聞く」ではなく、相手の感じていることや伝えたいことを理解しようと、心を込めて、全身で「聞く」のでしょう。□元を見ながら言葉を読み取ったり、相手の顔の表情から気持ちを押し量ったりされる方にとっては、「コロナ禍で多くの人々がマスクをするようになつてからの生活は、とても大変だったかも知れません。

私たちは、人によって異なる障害の特性があることを理解し、その人がどんな配慮や手助けを求めているのか、その気持ちや意向をしっかりと感じ取っていくことが大切です。

例えば、聴覚障害のある方の場合でも、手話や筆談など、どのような応対を希望されているのか分からないと、相手を不用意に傷つけてしまう可能性もあります。

詩の中にあつた「相手の感じていることや伝えたいことを理解しようと、心を込めて耳を傾ける」という姿勢は、誰にとっても大事な聴き方です。障害のある人もない人も、誰もが住みよい社会を実現するために、まずは相手の心の声や感じていることに寄り添い、理解しようと思ひやることから始めていきたいですね。では、また。